

# 西教寺報

多田大樹法務員(写真中央)布教使として初出教。自  
名の書かれた看板前で記念写真。



第88号  
仏歴2545 (2002・平成14)年  
3月27日発行  
呉市中央7-7-13  
西教寺蔵本通支坊  
TEL0823 (21) 2798  
FAX0823 (21) 2795  
郵便振替番号  
01340-3-29117

## 紙面

自他を苦しめない言葉を語れ  
……岩崎正衛(住職)〈1〉  
中田ツヤさん百歳に……〈2〉  
新帳場に岩間孝さん……〈3〉  
敬悼録……〈3〉  
中岡シナヨ同行の歌……〈3〉  
西教寺三津田支坊むかし話……金川八郎〈4〉

成人おめでとつ……〈4〉  
無著尼・発心……久保田利数〈5〉  
布教使になつて……多田大樹〈5〉  
報恩講つとまる……〈6〉  
お礼とお詫び……〈7〉  
西教寺法座と例会のご案内……〈8〉

## 自他を苦しめない言葉を語れ

岩崎 正衛 (住職)

西洋ではアダムとイブが禁断の木の実を食べたことから人間に知恵がついたとされますが、その知恵はも  
の事をあれかこれかと分けて考える仏教の言葉で言  
えば分別智ぶんべつちなのです。そも  
そもアダムとイブという別  
人格の二人が寄り合つて世  
界を作つて行くのですか  
ら。ものごとの最小単位  
は、あなたと私という二つ  
の対立する概念がひんです。それ  
に対して東洋のものの考え

方は、親と子というタテの  
関係であるといわれます。  
しかも「親子は一体」とい  
われますように、親から見  
ればわが子は別ものであつ  
て、別ものではないので  
す。これを仏教では不二ふたじ  
体たいと言います。そしてその  
親の念力がやがて子どもに  
も通じて、子どもも無心に  
親をしたうようになるので  
す。  
あれはあれ、これはこれ  
と割り切つてものごとを考

えるのは、分かりやすく  
理解しやすいのですが、も  
のことはそのようには割り  
切れないのが現実です。民



呉市制百周年記念

# 花まつり

四月 六日(土)

一〇時 稚児行列

蔵本通支坊  
本願寺会館  
堅徳寺  
呉市体育館

十一時 記念法要 (参加無料)

内田貴光スーパーイリコジョンマックスショー  
舞楽演奏/広島雅楽会 於呉市体育館

十四時 五木寛之(作家)講演会  
入場整理券が必要です

於呉市民会館ホール

主義は個人の人格と権利を認めて、明るく自由に生きることの出来る世界の実現を目指すのだと言われます。ものごとを合理的にとらえて、損か得か善か悪

か、合理的か非合理的かというように何でも分別して生きるのがよしとせられてきたようです。昨年九月十一日のアメリカでの同時多発テロが発生

するとブッシュさんはすぐに「アメリカに味方するかテロの側につくか」と世界を二分しようとした。彼らがなぜそのような過激な行動に出なければなら

かったのか、アメリカにも反省してもらわねばならぬのです。仏教の考え方が、私達ももちろんテロそのものを認めるわけには行きませんが、またブッシュ

（デビル）という不穏な形容詞をつけて呼ぶのですから彼は相当の心臓の持ち主です。今日全世界の軍事費の七割をアメリカ一国で占めて

かけるのと、憎しみを持って話しかけるのでは、まるで結果が相違するでしょう。かつて筆者は、ご門徒のお葬式にお参りした時、交通渋滞に巻き込まれて十五分ほど遅れたことがありました。到着して遺族の人に

# 中田ツヤさん200歳に

―記念に演台を三津田支坊に寄付―

中田ツヤさんは、昨年（二〇〇一年）四月一日で、満百歳になられました。ということは、今年の生誕証人でもある中田

（二〇〇二年）市制百年を迎える呉市よりも、年上ということになります。呉市の生誕証人でもある中田



三津田支坊の阿弥陀さまの前で記念撮影



んは、とてもお聴聞を大切にされ、本堂の一番前が指定席です。残念ながら最近足が弱られました。百歳の記念に、お聴聞には欠かせない演台を三津田支坊に寄付していただきました。

は今年一月二十九日の一般教書演説で、イラク・イラン・北朝鮮の三国を名指して「悪の枢軸」と呼びました。ご年配の方は古い記憶をお持ちでしょう。今度の世界大戦で米英の連合国側に対し

て、日独伊三国を枢密国と呼びました。その古いよからぬ印象を持つ枢軸国という言葉をも「悪の」

お釈迦さまは、「自分を苦しめないことば、他人を苦しめないことばをのみ語れ、これこそがよく説かれたことばである」（『ダンマパダ』）とおっしゃいました。「言葉は精神の脈拍」（亀井勝一郎）ですから、その人のいうことばを聞けばその人の心が見えて来ます。たとえ自分の気に入らない相手であっても、その人によくなって欲しいと思って話し

いまわれを 待たせて しまっている君の 心のいたみを 思つて 待とう （俵万智）

という、俵万智さんの歌が 思い出されたことです。 あの人になぜあのような ことを言い、なぜあのような 態度をするのだろうか？ ひよっとしたら私の方にも なにか落ち度があるのでは

新聞に載せる記事、ご意見  
ご感想をお待ちしています。

〒737-0051  
呉市中央7-7-13  
西教寺蔵本通支坊  
西教寺報編集局 宛  
FAX (0823) 21-2795  
Email chine163@enjoy.ne.jp

なかるうか?  
それが個人同士であれ、グ  
ループ同士であれ、国と国  
の関係であれ、いつもわが  
足下を見つめることが大切  
です。  
聖徳太子は、  
われかならず聖なるに  
あらず、かれかならず愚  
かなるにあらず、ともに  
これ凡夫ならくのみ、是  
く悪しきの理 たれかよ  
く定べき あひとともに賢  
く愚かなることの鑑の端  
なきがごとし  
『憲法十七条』第十条  
と示されました(未完)。

# 敬 悼 録

一月(二〇二一・平成十四年)	十二月(二〇二一・平成十三年)
二日 郷町	一日 東辰川町
四日 東中央四	二日 両城一
七日 熊野町	二日 上内神町
十六日 西愛宕町	十一日 東辰川町
廿二日 内神町	十五日 畝原町
廿三日 長ノ木町	廿一日 西惣付町
廿四日 阿賀北五	廿二日 畝原町
	廿五日 東惣付町
東富	立富
三ツヨ	秀子
八歳	八歳
松野	山本
計	トシコ
二五歳	九歳
中田	齋藤
半田	水野
内神	山田
折出	板谷
青木	下満
	末永
	静枝
	七歳
	艶子
	七歳

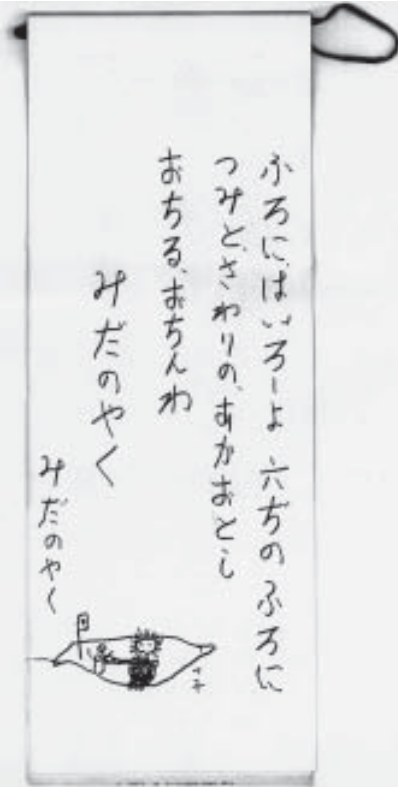
二月	廿五日 広島市東区	三宅	七五歳
	廿七日 山手一	船岡	九二歳
	廿日 西惣付町	竹橋	八三歳
	三日 東三津田町	川島	九〇歳
	四日 広島市安芸区	黒川	五八歳
	九日 西三津田町	大世渡	六八歳
	十一日 内神町	庄原	八六歳
	十二日 東京都渋谷区	永田	九二歳
	十五日 両城二	宮宇地	八〇歳
	十七日 東愛宕町	末永	九二歳
	十七日 内神町	高橋	七三歳
	十七日 西辰川二	瀧崎	七二歳
	十八日 東三津田町	二十歩	七九歳
	廿日 西谷町	竹本	八三歳
	廿五日 東中央三	出来元	八六歳
		金延	八十二歳
		(敬称略・年齢は数え年)	



## 新帳場に岩間孝さん

長ノ木本坊帳場・重村昌男さんが体調を崩されたため、新たに岩間孝さんがご苦勞くださることになりました(すでに昨年よりご報告いたしました)。岩間さん宜しくお願いします。

## 中岡シナヨ同行の歌 (1891~1986)



カレンダーの裏側に書かれてある

## 宮宇地正夫さん

体調を崩されてやめられるまで、蔵本通支坊の帳場として、とても誠実にご報告下さいました。

ふる(風呂)にはい  
(入)ろーよ 六ち  
(字)※のふるに つみ  
(罪)とさわ(障)りの  
あかお(垢落)とし  
おち(落)るおち(落)  
んわ(は) みだ(弥  
陀)のやく(役) みだ  
のやく

西教寺三津田支坊

むかしばなし

(最終回)

金川 八郎 (総代)

説教所の名称変更

明治四十二年三月、創建された三津田説教所は、戦時中に定められた「宗教団体法並びに真宗本願寺派宗制」により教会規則が定められ、「真宗本願寺派三城通教会」と名称を変更して、本山 大谷光照真宗本願寺派管長の認可をうけ、昭和十七年三月十八日、岩崎教会主管から「教会名称変更調書」が県に提出されている。

宮田群一 石井百太郎 金川仲蔵



戦没軍人未亡人慰問講話会・一九三九(昭和十四年)十一月 於三津田支坊か? (『呉の歩み』より)

三津田支坊戦災で焼失

三津田説教所は改築後、三津田支坊と称するようになった。

昭和十二年蘆溝橋事件に端を発した支那事変(日中戦争)から長

い戦争の時代がつづくことになり、ついに昭和十六年十二月八日米、英に宣戦を布告し太平洋戦争に突入する。世界の大国多数を相手にした戦争は、開戦時の奇襲成功で、戦勝気分

成人おめでとう

- 今年には四九名の方が成人され、本願寺より『歎異抄』とお祝いのカード、ボールペンが送られました。
荒谷 美奈子
泉 祐輔
井上 隆文
白井 浩子
榎元 美弥
圓石 祥子
遠藤 祥子
大川 由美
大塚 雅司
岡本 智幸
沖本 真一
越智 克治
落海 雅仁
渡橋 学美
加治木 正子
梶山 沙弥佳
片山 崇
加登岡 愛
川西 慎也
楠 香織
久保 まどか
黒崎 勝嗣
古賀 正浩
齊藤 輝
三田 宏美
清水 俊充
末廣 武士
瀬戸本 裕幸
高橋 結

三津田支坊も本堂、庫裏その他施設いっさいを灰燼に帰したが、幸いにも当時警防団員として警備

にあっていていた井福徳人師が身をもって、御本尊仏をお守りして避難し難をのがれ、愛宕町の松本りつ子宅に仮安置して、後に戦災で免れた長の本木坊に奉遷した。八月六日広島市に原爆投下、八月十五日詔勅が下され終戦となる。

※この物語は故白井群外氏の遺稿をもとに記述したものである。

# 無著尼・発心

久保田利数

(第一話)

## 無著尼

(『本朝語園』より)  
如大禪師無著尼は金沢越後守顕時の娘、婚家先の

家、某の中傷により家運かたむく。怏々として月日を送ったが、意を決し家を出て建長寺の仏光国師に参禅して、弟子となり、また京へも行き東福寺の聖一国師に参禅す。その時炬火をもつて顔をやく。一日ぬけて美濃国に至り松見寺の老尼につき、同寺にて修行する諸尼のために、下働きする賤婦となって、薪を採り水を汲み、ひたすらに働

き続けた。暇ある時は禅床に坐す。

その後、八月十五日夜、

月あきらかに輝き雲なし。

如大禪尼谷に下り水を汲む。突如底抜けて水みな流れ出てからになる。忽然として大悟す。和歌を詠む。

とにかくに  
たくみし桶の  
底ぬけて  
水たまらねば  
月もやどらず

この歌世人に好まれ広くゆきわたる。後に洛北松木嶋のあたりに一字を建て景愛寺と名付けて此処に住む。更に後に仁和寺北東の山辺に正脈寺(庵)を草創し、此処にて永仁六(鎌倉時代・一二九八)年十一月二十八日七十六歳にて遷化する。

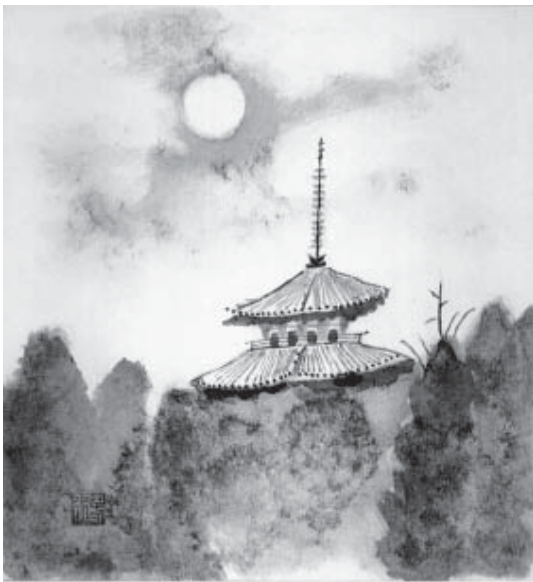
(第二話)

## 発心

(『選択抄』より)

以往(昔)あずま道(東海道)の方向をさすらい歩いた者だが、宇津の山辺の櫻、見過ごしがたく思つて、奥深くたづね歩いたが、それでなくても淋しいところであるのに、つたのび茂つた細道は一きは心細く、日陰ももらぬ樹間に、形ばかりの庵を結んで

座禅している僧があった。年齢は四十ばかりにもなるだろうかと思われる。いづくのひとであろうか、どうして此処にもお住みになったのだろうか。その発心された縁を聞きたいと思ってお訪ねした。その人言う。我は相模の国者なり。武士の家に生まれ、三尺の秋の霜(刀)を腰にさし、胡祿(矢を入れる道具)に入れた矢を使う身分の者であったが、生死無常のことを恐



絵・堀岡春三さん

ろしく思うようになり、よくよく心を鎮めて座禅などして見たが、なかなか世を捨てることできず、その間に年頃の娘病死した。ますます心静まらず、頭髪を切つて此山にこもった。初めは松崎という寺にいたが、親しき人(僧たち)が、あれこれ話すことむつ

かしくて、人にも知られぬようにかくれ、二年ばかりになりました。時々里に出て食を乞い、やっと命をつないできました。今、心澄みて物を食べたいとも思わないので、月に二三度ほど何かを食べておりますと言われたり。

## 布教使になつて

多田 大樹 (法務員)

皆様こんにちは、お久しぶりです。今、この手記を書いている時は二月の中旬で、まだまだ寒いですが、この新聞が皆様の手元に届く時には、春の気配を感じ取れる様になり、春の風に乘つて、私達の元にもお念仏が運ばれてくることですね。

さて、私事になります。が、昨年は約半年間法務を休ませて頂いて、京都で布教使になる勉強をさせて頂きました。おかげさまで九月二十九日に全ての課程を終えて無事に呉に帰って来ることができました。京都では布教の勉強もさることながら、学生時代には気づ

かなかった事もいろいろと教えられた事です。その中で最後の指導を頂いた時に、ある一人の先生から「布教使の心得」という事について一言頂きました。その一言とは、「あなた達も明日からは本願寺布教使として布教に出ることになるのです。しかし、一つだけ決して忘れてはならない事があります。それは私は「布教使」であって「布教師」ではないんです」というお言葉です。どういうことかというと私自身が決して偉くなって皆様から「師」として呼ばれるのではなく、あくまでも親鸞聖人や蓮如上人がお示下さったご法義をおとりつぎさせて頂く身になったという事です。ですから布教の師ではなく布教の使いだということをいつも心にかけたいです。道後温泉にも近くていて下さいというお言葉でした。その話を聞いた時に、ともすれば天狗になろうとしていた私には本当にありがたいご指導として聞かせていただきました。今後はいつもこの一言を心にかけて皆様

と共に御法縁に会わせて頂きたいと思っております。

次に、近況報告ですが、先日布教使として初めて布教に出させて頂きました。伝道院で一緒に学ばせて頂き、去る十一月二十八日の蔵本通支坊の報恩講で雅楽を演奏



絵・堀岡春三さん

してくださった中の一人の柳田さんのお寺に一月五日、六日と二日間、に亘りお声をかけて頂きました。場所は松山市の三津浜西性寺というお寺です。道後温泉にも近く、呉からも一時間半位で行くことの出来る所です。まずお寺に着くと三門には「本願寺布教使多田大樹」と大きく書いていて下さり、その字を見た時、大きな感動と同

時に大変な役割を頂いたものだと今一度心に思いました。そして最初に聞いていた話では、どんな方が来られてもお説教が始まると一人、また一人とお同行の方々が席を立てて帰って行って、最後には五人位の方しか残らないけれど、それは気にしないで下さいと言われしました。そうなんですかと返事はしてみました。そうはいつでも気になりますよね。そんな時にその悩みを聞いて院主さんと坊守さんが一緒に参って下さるとおっしゃって下さいました。(忙しい中を時間をさいて下さってありがとうございます。)

（これで百人力と勇んで出かけた訳ですが、案ずるよりの産むが易しいといましようか、私のつたない法話でも殆どの方が最後まで聴聞して下さいました。西性寺の方々には心よりお礼を申し上げます。そして、南君(西教寺法務員)も最後の席にはかけつけてくれて、お説教中の写真や三門で自分

の名前の書かれた横での記念写真を撮ってくれました。その写真が私にとって大切な宝物であり、その一枚一枚がたとえ時間と共に色あせていったとしても、布教使としての最初の心がけだけはいつまでも大切にしていこうと思えます。

最後に私を何年もかけてあたた

かく育てて下さった西教寺の皆様、そしていつもうんうんとうなずいて私の話を聞いて下さったお同行の皆様にも心より感謝しています。これこそが浄土真宗のお育てだなと味わいました。これからも皆様と共にお念仏の薫る日暮しをさせて頂きたいと思えます。

合掌

## 報恩講とまる

おとしつ・正當(御正忌)など、やまのまじ

報恩講とは、親鸞さまの法事のこと。

ちよっと古い話になりましたが、昨年末(十一月・十二月)から今年一月にかけて、さまざまな報恩講へおとりこし報恩講・安芸南組少年少女報恩講のついでに「正當(御正忌)報恩講」が三力所の西教寺でつとまりました。

## おとしつ報恩講

蔵本通支坊での法要の雅楽は、今回はなんと生演奏でした。多田法務員の知人や組内法中、そして住職(広島仏教学院・広島学寮講師)の教え子らが、愛媛や島根、遠くは東京から駆けつけてくれました。また「親鸞さまありがとう」と書かれた報恩講の幟も初登場し、例年よりも一段とにぎやか

な雰囲気ですとまりました。

ここ二年ほど、本堂の一件で伝統のお齋を中止していた長ノ木本坊では、今年（正確には昨年）は万難を排して再開する予定でした。しかし、お齋を取り仕切る「ババ長」（皆が陰でそう呼んでいるらしい）さんが怪我をされ、残念ながら今年も復活はなりませんでした。とはいうものの、信じられない団結力で、昨年より数段グレードアップしたお齋が出されたのでした。

その他、ここには書き切れませんが、忙



蔵本通支坊は雅楽の生演奏で法要

恒例になった記念撮影。「もっと内側へ寄ってえや。外側は顔が広がって写るんじやと！」



しい合間をぬっての献身的掃除や、障子の張り替え、破損箇所修復、参詣法中に出された精進ケーキ（ラジオが取材に来た有名な物）など、さまざまな方々のご懇念が結果して、すばらしい報恩講がとまりました。

また蔵本通支坊では、年末に近隣の五十ヶ寺で組織される安芸芸南組主催少年少女

大型紙芝居



報恩講のつどいが催され、参加した約百四十名の子供たちは、竹原から来てくれた市民グループたんぽぽの大型紙芝居などを見て楽しみました。

1. 正当（御正忌）報恩講

今年はずいぶん暖かい「おたんや」（親鸞さまのご命日、またはその日を中心とする法座の通称）でしたね。

本坊は毎年自動（ご講師をお招きせず寺内僧侶がお取り次ぎをする）で、住職や若院以外にも、法務員や住職の教え子ら若手

が、若々しいお取り次ぎをするのが恒例となっています。また「御示談」（人生の悩みや信心に関する相談）や「ご絵伝」（親鸞さまの伝記絵巻物）の絵解きもされ、大連夜には「御伝鈔」（親鸞さまの伝記読み物）が拜読されました。

また、長ノ木本坊、蔵本通・三津田両支坊で、それぞれ白みそ仕立ての雑煮や甘酒ぜんざいなどがふるまわれました。

最後に、今年に映画「親鸞」「続親鸞」（無料）を皆で鑑賞しました。特に蔵本通支坊は、予想外の参詣者で、入りきれない程でした。



お礼とお詫び

【春彼岸会法座にお供え】  
厚井一芳

【寺報へ寄付】

丸子カツノ（呉市海岸通）  
宮岡泰久（呉市焼山）  
神田寛（広島市安佐南区）

※昨年十二月、寺報へ寄付して下さった方のお名前の記録を失ってしまいました。寄付してくださった方には、心よりお詫び申し上げます。また、どうかご寛恕下さり、ご連絡下さいますようお願い申し上げます。 合掌